

グラウンド・ゴルフ大会で相互交流

10月15日(土)と16日(日)の二日間、庄内町笠山と楯山公園を会場に、第13回となる南三陸町と庄内町のグラウンド・ゴルフ大会が行われました。この大会は、南三陸町と庄内町を隔年で相互訪問して実施しているスポーツによる交流事業で、今回は南三陸町から34人、庄内町から39人のあわせて73人が参加しました。当日は、曇り空に時おり晴れ間が見える肌寒い天気でしたが、参加者はコースを回っていくうちに爽やかな汗を流しながらプレーを楽しんでいま



した。南三陸町の参加者は「久しぶりにグラウンド・ゴルフを楽しめた。いい運動になった。」と笑顔を見せ、毎年この大会で顔をあわせるのを楽しみにしているという庄内町の参加者も「来年も元気で再会したい。」と話していました。



その後、北月山荘で開催された歓迎の交流会でも親睦を深め、翌日はたちかわ秋まつりにも参加し、庄内町の秋を満喫しました。

復興に向かって ④

今回は、これからの土地利用の考え方やイメージについてお知らせします。

震災復興計画では、これらの町づくりのポイントについて、「なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台へ」という言葉で表現しています。これは、今回の大震災の経験から、真冬の夜間という逃げにくい環境であつても命を守り抜くということを第一として考え出されたものです。

具体的には、下の断面図にもあるとおり、住宅や公共施設は最大クラスの津波でも襲われない高台に配置することとしています。ただし、水産業を基幹産業とする本町の場合、海沿いの低地での仕事はやむをえないことから、低地には避難路や避難施設を配置して命を守ることをしました。また、浸水した地域は付近の高台へ集団で移転することを想定しています。現時点で想定される各地域の移転先につ



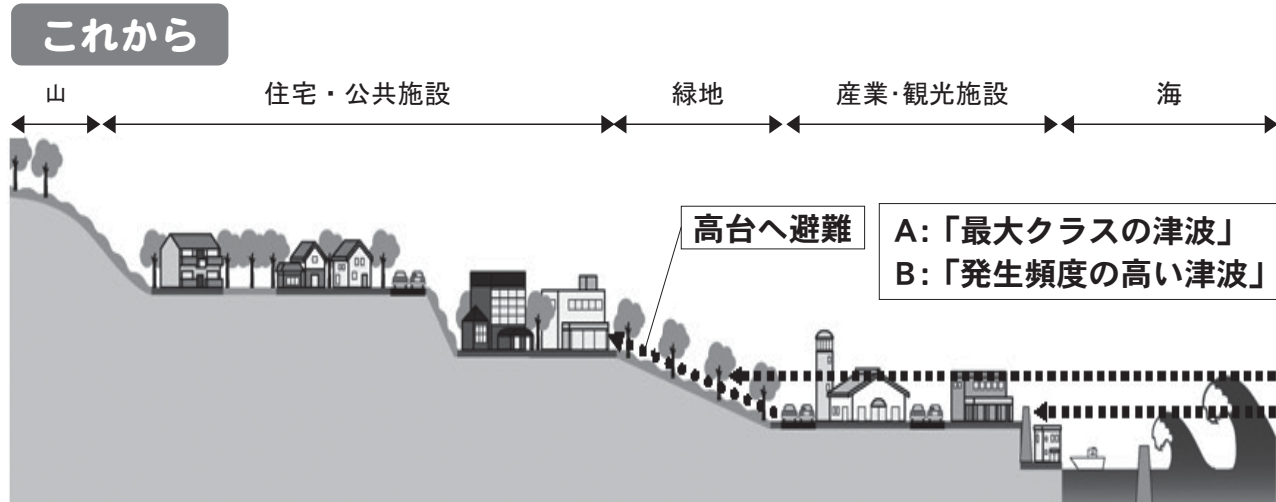
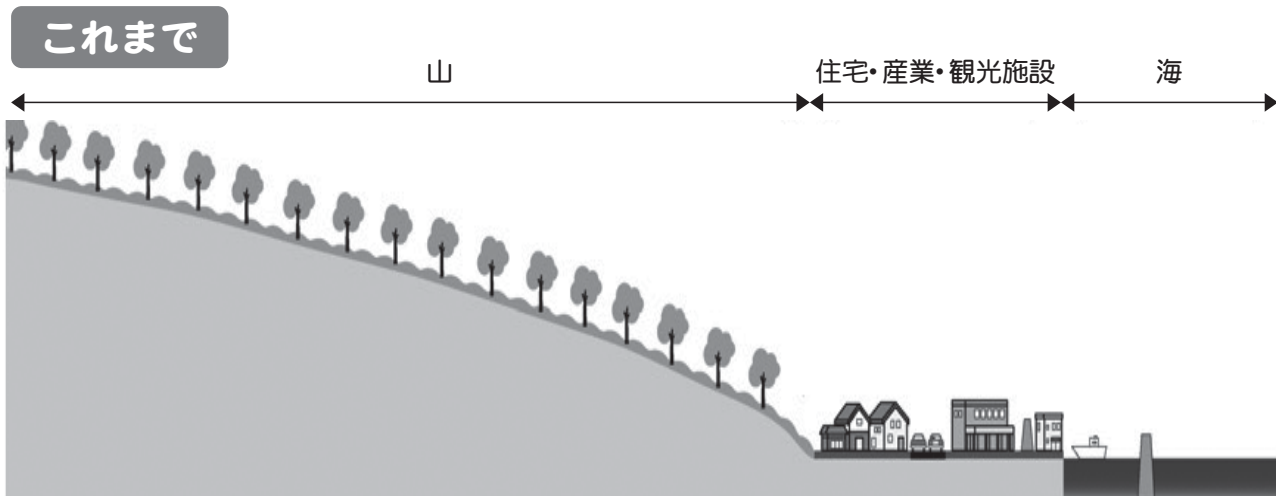
いては、次のページに土地利用イメージ図として掲載していますのでご覧ください。

なお、この土地利用イメージ図は、現在検討中の試案であり確定したものではありません。今後、地域の皆さんと意見交換等を行うとともに関係機関等との調整を行いながら、移転候補地や移転方法などについて決定する手続きを進めていきます。

問い合わせ

震災復興推進課
☎46-1371

まちづくりの断面イメージ



今月の観光ネットは、お休みします。

夢大使 リレー通信 60



夢大使 藤島 純七さん (仙台市)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、七十七銀行志津川支店の元支店長でアマチュア写真家としても活躍している藤島純七さんです。

復興を願って

平成23年3月11日14時46分、私は職場で被災しました。その後、徒歩でやっと自宅に帰り、停電のなかラジオを聞いてみると、大津波のため南三陸町の住民約1万人と連絡がとれないというニュースが流れ、大きなショックを受けました。町の方々は無事だろうか心配するばかりでした。仕事の関係で南三陸町に行くことができず、やっと4月に訪れて、また衝撃を受けました。テレビで見たのより何倍もひどく、自分がいる場所もわからないほどでした。

私の趣味は「写真」ですが、とてもカメラに向き合う気持ちにはなれませんでした。それでも、ある人から「その人自身で、できること」から復興に協力することが重要だとアドバイスを受け、撮影を開始しました。そんなとき、以前より挑戦をしていた全国写真雑誌「日本カメラ」の9月号のカラープリント部門で最高賞の「金賞」の連絡が届きました。作品は、南三陸町の「入谷打囃子」を撮影したものでした。さらに「夢のまた夢」だった同誌の年度賞(1年間で入



日本カメラ9月号金賞作品「伝統の舞」

選獲得の累計点数10位以内)6位となりました。これは、南三陸町に助けられてのことです。改めて感謝申し上げます。現在は、写真を始めるきっかけとなった南三陸町のかつての美しい風景、いきいきとした町民の方々の姿をとらえた作品の整理をしています。南三陸町が元のようなするには、まだ時間がかかると思いますが、復興を願いつつ、微力ながら自分なりに協力してゆきたいと思っています。最後に、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災にあわれた方々にお見舞い申し上げます。